

礼拝メッセージフィードバック

<今日の聖書箇所は…>

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

セル ガイド

- ① 祈り、賛美によって主がここにいてくださることを信じ、聖霊様があがめます。
- ② 互いの存在を感謝し、尊敬するところを分かち合しましょう。
- ③ ディポジションの分かち合いをします。
- ④ セルの目的と働きについてみなで共有して、祈り、遣わされて行きましょう。

家族礼拝ガイド

年長のクリスチャンがリードしてください。進め方にはいろいろな意見が出るかもしれませんが、「主に期待する」信仰が最も大切です。いつもの家族のでいいのです。

- ① この1週間で神様はすばらしいと感じたのはどんなこと？
- ② この1週間でお互いにどんなことを感謝しますか？（または誉めたいですか？）1つだけ。
- ③ 聖書のみことばから、どんな実践をして、またどんな恵みがありましたか？
- ④ 互いの必要のために祈りましょう。

デーヴォ ガイド



2021.4.12-18

But **grow** in the grace and knowledge of our Lord and Savior Jesus Christ. To him be glory both now and forever! Amen. II Peter 3:18

L T G ガイド

- ① お互いへの感謝と誉めることを分かち合しましょう。（2～3つ）
- ② 1週間の罪を言い表して悔い改め、互いに祈りましょう。
- ③ 礼拝メッセージの分かち合いをします。
礼拝メッセージの分かち合いが難しい場合はディポジションの分かち合い（なるべく短く）
- ④ 預言の祈り（主の御心を宣言して祈り）をします。

4:10 モーセは主に申し上げた。「ああ主よ。私はことばの人ではありません。以前からそうでしたし、あなたがしもべに語られてからもそうです。私は口が重く、舌が重いのです。」

4:11 主は彼に仰せられた。「だれが人に口をつけたのか。だれがおしにしたり、耳しいにしたり、あるいは、目をあけたり、盲目にしたりするのか。それはこのわたし、主ではないか。」

4:12 さあ行け。わたしがあなたの口とともにあって、あなたの言うべきことを教えよう。」

4:13 すると申し上げた。「ああ主よ。どうかほかの人を遣わしてください。」

4:14 すると、主の怒りがモーセに向かって燃え上がり、こう仰せられた。「あなたの兄、レビ人アロンがいるではないか。わたしは彼がよく話すことを知っている。今、彼はあなたに会いに出て来ている。あなたに会えば、心から喜ぼう。」

4:15 あなたが彼に語り、その口にことばを置くな。わたしはあなたの口とともにあり、彼の口とともにあって、あなたがたのなすべきことを教えよう。」

4:16 彼があなたに代わって民に語るなら、彼はあなたの口の代わりとなり、あなたは彼に対して神の代わりとなる。」

4:17 あなたはこの杖を手に取り、これでするしを行なわなければならない。」

モーセはその使命を全うするにあたり、神様からの取り扱いが必要でした。彼はその無力さゆえに行くことを拒みました。しかし、自分の無力さを認め

ることは大切なことで、私たちの働きはここから始まります。すなわち神様の力が、そこに現れるからです。

また自分ではこの重荷を負うことを恐れ、別の人を遣わすように懇願しました。そこで主は「アロンがいるではないか。」と、モーセに言っておられます。一人ではできないことは当然ですから、私たちも、謙遜に助けや協力を求めましょう。

そのようにして、主の導きに従うことができますし、また主のための成功者となることのできるのです。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



▶13日 火曜

出エジプト



4:18 それで、モーセはしゅうとのイテロのものに帰り、彼に言った。「どうか私をエジプトにいる親類のものに帰らせ、彼らがまだ生きながらえているかどうか見させてください。」イテロはモーセに「安心して行きなさい。」と答えた。

4:19 主はミデヤンでモーセに仰せられた。「エジプトに帰って行け。あなたのいのちを求めていた者は、みな死んだ。」

4:20 そこで、モーセは妻や息子たちを連れ、彼らをろばに乗せてエジプトの地へ帰った。モーセは手に神の杖を持っていた。

4:21 主はモーセに仰せられた。「エジプトに帰って行ったら、わたしがあなたの手に授けた不思議を、ことごとく心に留め、それをパロの前で行なえ。しかし、わたしは彼の心をかたくなにする。彼は民を去らせないであろう。

4:22 そのとき、あなたはパロに言わなければならない。主はこう仰せられる。『イスラエルはわたしの子、わたしの初子である。

4:23 そこでわたしはあなたに言う。わたしの子を行かせて、わたしに仕えさせよ。もし、あなたが拒んで彼を行かせないなら、見よ、わたしはあなたの子、あなたの初子を殺す。』」

モーセが主のために決心した後は、神様は現実を開いてくださいました。しゅうとイテロの理解、自分のいのちを狙っていた者がいなくなり、彼が主のために働く状況がそろったのです。このように主は、その使命を果たす者のためには現実を動かしてくださるので、私たちは期待して主のために進むことができます。

ここで大切なことは、自分の都合のために現実が

動いたというのではないということです。あくまでも主の働き、すなわち「パロに言わなければならない。」という使命があり、主の目的のためです。そのために働き人は祝福されるのです。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



▶14日 水曜

出エジプト

4:24 さて、途中、一夜を明かす場所でのことだった。主はモーセに会われ、彼を殺そうとされた。

4:25 そのとき、チッポラは火打石を取って、自分の息子の包皮を切り、それをモーセの両足につけ、そして言った。「まことにあなたは私にとって血の花婿です。」

4:26 そこで、主はモーセを放された。彼女はそのとき割礼のゆえに「血の花婿」と言ったのである。

4:27 それから、主はアロンに仰せられた。「荒野に行つて、モーセに会え。」彼は行つて、神の山でモーセに会い、口づけした。

4:28 モーセは自分を遣わすときに主が語られたことばのすべてと、命じられたしるしのすべてを、アロンに告げた。

4:29 それからモーセとアロンは行つて、イスラエル人の長老たちをみな集めた。

4:30 アロンは、主がモーセに告げられたことばをみな告げ、民の目の前でしるしを行なったので、

4:31 民は信じた。彼らは、主がイスラエル人を顧み、その苦しみをご覧になったことを聞いて、ひざまずいて礼拝した。

「彼を殺そうとされた」というのは、モーセが重病にかかったのだと思われまふ。なかなか癒されずに、神様は彼をそのまま見捨てるのかと思われたのでしょう。そこで、彼の妻であるチッポラは、息子に割礼（神の民のしるしとして男子が受けるもの）をしていないことに気づきました。

つまり神のものだという明確なしるしが無かったのです。私たちが人生を歩むにあたって、また歩みは神様の使命と一体ですから、その使命を果たすにあたって、自分が神のものであるということは明確



にしなくてはなりません。

「民は信じた。」とあります。以前は口が重く、人を説得することなど無理と思っていたモーセですが、神様の權威と彼の確信、そして神様のみわざがあるとき、神の共同体は一体できるのです。自分のことばの巧みさや実力よりも、主のみわざを求めましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



▶ 15日 木曜

出エジプト



5:1 その後、モーセとアロンはパロのところにいき、そして言った。「イスラエルの神、主がこう仰せられます。『わたしの民を行かせよ、荒野でわたしのために祭りをさせよ。』」

5:2 パロは答えた。「主とはいったい何者か。私とその声を聞いてイスラエルを行かせなければならないというのは。私は主を知らない。イスラエルを行かせはしない。」

5:3 すると彼らは言った。「ヘブル人の神が私たちにお会いくださったのです。どうか今、私たちに荒野へ三日の道のりの旅をさせ、私たちの神、主にいけにえをささげさせてください。でないと、主は疫病か剣で、私たちを打たれるからです。」

5:4 エジプトの王は彼らに言った。「モーセとアロン。おまえたちは、なぜ民に仕事をやめさせようとするのか。おまえたちの苦役に戻れ。」

5:5 パロはまた言った。「見よ。今や彼らはこの地の人々よりも多くなっている。そしておまえたちは彼らの苦役を休ませようとしているのだ。」

5:6 その日、パロはこの民を使う監督と人夫がしらに命じて言った。

5:7 「おまえたちはれんがを作るわらを、これまでのようにこの民に与えてはならない。自分でわらを集めに行かせよ。」

5:8 そしてこれまで作っていた量のれんがを作らせるのだ。それを減らしてはならない。彼らはなまけ者だ。だから、『私たちの神に、いけにえをささげに行かせてください。』と言って叫んでいるのだ。

5:9 あの者たちの労役を重くし、その仕事をさせなければならない。偽りのことばにかかわりを持たせてはいけない。」

5:10 そこで、この民を使う監督と人夫がしらは出て行って、民に告げて言った。「パロはこう言われる。『私はおまえたちにわらを与えない。』」

5:11 おまえたちは自分でどこへでも行ってわらを見つけて、取って来い。おまえたちの労役は少しも減らさないから。』」

5:12 そこで、民はエジプト全土に散って、わらの代わりに刈り株を集めた。

5:13 監督たちは彼らをせきたてて言った。「わらがあったときと同じように、おまえたちの仕事、おまえたちのその日その日の仕事を仕上げよ。」

5:14 パロの監督たちがこの民の上に立てたイスラエル人の人夫がしらは、打ちたたかれ、「なぜおまえたちは定められたれんがの分を、きのうもきょうも、これまでのように仕上げないのか。」と言われた。

モーセが言ったからといって、パロ王は従いませんでした。この世の権力はさらに強大になりたいと、その欲望はとどまるどころを知りません。モーセには何の武力も財力もないので、この世の権力にとっては従うようなものではないのです。私たちも同じような体験をしましょう。そのときこそ、信仰が表れます。

パロはさらに「労苦を重く」しました。モーセの行動は、イスラエルにとって裏目に出してしまったのです。そのようなことはよくあるので、私たちは主に従っているのなら、ひるむことはありません。モーセのように、主の力で冷静に大きな目で見て立ち向かいましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



▶ 16日 金曜

出エジプト

5:15 そこで、イスラエル人の人夫がしらは、パロのところに行き、叫んで言った。「なぜあなたのしもべどもを、このように扱うのですか。」

5:16 あなたのしもべどもには、わらが与えられていません。それでも、彼らは私たちに、『れんがを作れ。』と言っています。見てください。あなたのしもべどもは打たれています。しかし、いけないのはあなたの民なのです。」

5:17 パロは言った。「おまえたちはなまけ者だ。なまけ者なのだ。だから『私たちの主にいけにえをささげに行かせてください。』と言っているのだ。」

5:18 さあ、すぐに行って働け。わらは与えないが、おまえたちは割り当てどおりれんがを納めるのだ。」

5:19 イスラエル人の人夫がしらは、「おまえたちのれんがのその日その日の数を減らしてはならない。」と聞かされたとき、これは、悪いことになったと思った。

5:20 彼らはパロのところから出て来たとき、彼らを迎えに来ているモーセとアロンに出会った。

5:21 彼らはふたりに言った。「主があなたがたを見て、さばかれますように。あなたがたはパロやその家臣たちに私たちが憎ませ、私たちが殺すために彼らの手に剣を渡したのです。」

5:22 それでモーセは主のもとに戻り、そして申し上げた。「主よ。なぜあなたはこの民に害をお与えになるのですか。何のために、私を遣わされたのですか。」



5:23 私がパロのところに行って、あなたの御名によって語ってからこのかた、彼はこの民に害を与えています。それなのにあなたは、あなたの民を少しも救い出そうとはなさいません。」

6:1 それで主はモーセに仰せられた。「わたしがパロにしようとしていることは、今にあなたにわかる。すなわち強い手で、彼は彼らを出て行かせる。強い手で、彼はその国から彼らを追い出してしまう。」

人夫がしらも必死です。苦役で奴隷の生活であったのが、さらに苦しくなったからです。そこでモーセとアロンに「私たちが殺すために彼らの手に剣を渡した」というのも道理になっ

ています。このような時にこそモーセは辛かったことでしょう。民のためにと立ち上がったのに、結果は逆になったのです。悩みに悩んだでしょう。そこで彼のとった行動に注目すべきです。主のもとに行ったのです。彼の祈りの場でしょうか。

私たちが葛藤があるとき、悩みのときは、すぐに人に相談したりネットで検索したりせずに、主のもとに行くことが重要です。彼は主の確かな答えをいただきました。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



- 6:2 神はモーセに告げて仰せられた。「わたしは主である。
- 6:3 わたしは、アブラハム、イサク、ヤコブに、全能の神として現われたが、主という名では、わたしを彼らに知らせなかった。
- 6:4 またわたしは、カナン之地、すなわち彼らがとどまった在住の地を彼らに与えるという契約を彼らに立てた。
- 6:5 今わたしは、エジプトが奴隷としているイスラエル人の嘆きを聞いて、わたしの契約を思い起こした。
- 6:6 それゆえ、イスラエル人に言え。わたしは主である。わたしはあなたがたをエジプトの苦役の下から連れ出し、労役から救い出す。伸ばした腕と大いなるさばきとによってあなたがたを贖う。
- 6:7 わたしはあなたがたを取ってわたしの民とし、わたしはあなたがたの神となる。あなたがたは、わたしがあなたがたの神、主であり、あなたがたをエジプトの苦役の下から連れ出す者であることを知るようになる。
- 6:8 わたしは、アブラハム、イサク、ヤコブに与えると誓ったその地に、あなたがたを連れて行き、それをあなたがたの所有として与える。わたしは主である。」
- 6:9 モーセはこのようにイスラエル人に話したが、彼らは落胆と激しい労役のためモーセに聞こうとはしなかった。
- 6:10 主はモーセに告げて仰せられた。
- 6:11 「エジプトの王パロのところへ行行って、彼がイスラエル人をその国から去らせるように告げよ。」
- 6:12 しかしモーセは主の前に訴えて言った。

「ご覧ください。イスラエル人でさえ、私の言うことを聞こうとはしないのです。どうしてパロが私の言うことを聞きましょう。私は口べたなのです。」

6:13 そこで主はモーセとアロンに語り、イスラエル人をエジプトから連れ出すため、イスラエル人とエジプトの王パロについて彼らに命令された。

神様の約束のことは力強く、恵みにあふれていました。しかし民は「聞こうとは」しませんでした。苦役があったからです。このように神様のみこころを聞く余裕のない人も多くいます。

このことは今後のモーセにとって訓練となることでした。民が神のことは聞こうとしないのは、荒野で何度も起こるからです。神様はモーセだけでなく、モーセも含めて民全体を訓練しようとなさったのです。

苦しいことがあるからこそ、私たちは主に聞きましよう。それが本当の解決なのです。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



6:14 彼らの父祖の家のかしらたちは次のとおりである。イスラエルの長子ルベンの子はエノク、パル、ヘツロン、カルミで、これらがルベン族である。

6:15 シメオンの子はエムエル、ヤミン、オハデ、ヤキン、ツォハル、およびカナン人の女の子サウルで、これらがシメオン族である。

6:16 レビの子の家系の名は、次のとおりである。ゲルシオン、ケハテ、メラリ。レビの一生は百三十七年であった。

6:17 ゲルシオンの子の諸氏族はリブニとシムイである。

6:18 ケハテの子はアムラム、イツハル、ヘブロン、ウジエルである。ケハテの一生は百三十三年であった。

6:19 メラリの子はマフリとムシである。これらはレビ人の諸氏族の家系である。

6:20 アムラムは父の妹ヨケベデを妻にめとり、彼女はアロンとモーセを産んだ。アムラムの一生は百三十七年であった。

6:21 イツハルの子はコラ、ネフェグ、ジクリである。

6:22 ウジエルの子はミシャエル、エルツァファン、シテリである。

6:23 アロンは、アミナダブの娘でナフシヨンの妹であるエリシエバを妻にめとり、彼女はナダブとアピフ、エルアザルとイタマルを産んだ。

6:24 コラの子はアシル、エルカナ、アビアサフで、これらはコラ族である。

6:25 アロンの子エルアザルは、プティエルの娘のひとりをもとめとり、彼女はピネハスを産んだ。これらはレビ人の諸氏族の一族のか

しらたちである。

6:26 主が「イスラエル人を集団ごとにエジプトの地から連れ出せ。」と仰せられたのは、このアロンとモーセにである。

6:27 エジプトの王パロに向かって、イスラエル人をエジプトから連れ出すようにと言ったのは、このモーセとアロンであった。

6:28 主がエジプトの地でモーセに告げられたときに、

6:29 主はモーセに告げて仰せられた。「わたしは主である。わたしがあなたに話すことを、みな、エジプトの王パロに告げよ。」

6:30 しかしモーセは主の前に申し上げた。「ご覧ください。私は口べたです。どうしてパロが私の言うことを聞くでしょう。」

イスラエルを救い出すと言っても、それがそれほどの規模なのか、ここに記されています。規模だけでなく、イスラエルの部族が読者の時代にまで続いているとしたら、それは歴史的にも重要な民であったことがわかります。

このように主は歴史に働かれる神です。力ある神です。私たちの人生の個人的な歴史、家系の歴史、教会に歴史も同じように主に導かれてきたのです。主の力に信頼しましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

